

米株 VIX 指数、8 月にかけて短期上昇警戒

過熱調整、感染減や薬開発での逆流、米大統領選など

2020/7/27

リスク回避の尺度であり、米株投資家の不安心理を映すシカゴ・オプション取引所（CBOE）ボラティリティ（VIX）指数は、8 月にかけて短期上昇が警戒される。7 月後半にかけての米企業による決算発表が一段落してくると、一旦の材料出尽くしや収益見通し見合いでの割高さが意識される可能性がある。さらに米国での追加経済対策の難航リスクや、米国でコロナ感染が減少に転じたり、ワクチン・治療薬の開発が進展した場合のコロナ・バブルの逆流、FRB 危機対応の縮小、米大統領選の緊迫化などが注視される。

コロナ問題の緩和、コロナ・バブルの調整誘発

「安倍晋三首相は国内でのコロナ感染再増加や観光支援事業・Go To トラベルを巡る迷走などで、政府批判が高まりながらも、表立った対応指示や国民向けの会見が見られていない。打つ手なしのコロナ問題に疲労困憊しているという見方がある一方、今少し影を潜めて批判や不満を回避する時間稼ぎをすれば、ワクチン開発や感染減にメドが立つ確証を持ち始めた、という観測もある」――。

ある官邸周辺筋はこのような指摘を行う。コロナに関しては米国が 8 月末から 9 月上旬に調整している G7 サミット（首脳会議）で、トランプ米大統領が一定の感染抑制とワクチン開発の成果をアピールしようとしているほか、各国首脳も制圧共闘の国際イベントとしたい考えだ。

20 日にはワクチンを開発する英オックスフォード大のチームと、中国の軍事科学院のチームがそれぞれ、接種した人に感染を防ぐ抗体ができ、有望だとする臨床試験の結果を英医学誌に発表した。共同開発する英製薬アストラゼネカは「9 月の供給開始」を表明し、欧米諸国がワクチンの確保で合意している。

8 月以降にワクチン・治療薬の開発と普及メドが現実化してくると、米国や日本などで感染者が減少に転じてくると、米国市場で一旦はリスク選好と株高が後押しされる。しかし米国株市場は 3 月中旬以降、コロナ感染の拡大や経済打撃の中で株高が加速されてきた。政府の財政出動や FRB の超金融緩和のほか、リモート特需、巣ごもり消費などの恩恵企業株が物色される「コロナ・バブル」が過熱している。その意味でコロナ問題の一旦の緩和は、各種バブル相場の短期調整的な反動逆流が警戒される。

具体的には大きく上昇してきた米国の IT・ハイテク株やヘルスケア株、金相場、米国債価格、米ハイ・イールド債価格などの調整下落だ（債券金利は上昇）。

反対にコロナ打撃で急落してきた航空株、運輸株や小売・各種サービス株、オフィス関連株、ドルなどは短期反発の可能性をはらむ。

しかもコロナ問題の緩和は、FRB による危機対応の縮小へとつながっていく。ただでさえ、米 FRB の週間マネタリーベース残高は、最新 7 月 15 日週に 13 週前比 -2.6% と前週の +5.4% から減少した。5 月 27 日週の +51.2% を最高として、昨年 9 月以来のマイナス幅へと減速している。8 月に向けては、一段の危機モード縮小と量的緩和（QE）モメンタムの鈍化が警戒されやすい。

先行き FRB のマイナス金利観測が後退する中で、米財務省証券の 3 カ月物金利もジワリと底上げされてきた。足元では 13 週移動平均線や 3 カ月移動平均線の方向性が「上向き化」へと転換しつつある。過去実績として過度な金利低下の安心感後退などにつながり、時間差を経て調整株安に伝播するパターンも見られている。

その中でリスク回避の尺度であり、米株投資家の不安心理を映すシカゴ・オプション取引所（CBOE）ボラティリティ（VIX）指数は、8 月にかけて短期上昇が警戒される。目先の米国株市場も 7 月後半にかけての米国企業による決算発表が一段落してくると、一旦の材料出尽くしや収益見通し見合いでの割高さが意識される可能性がある。

VIX 週足、8 月中旬以降に先行スパン雲が急上昇

ちょうど VIX 指数の週足・一目均衡表チャートでは、先行スパンの雲上限が現在の 17.92 前後での横這い継続を経て、8 月 21 日週に 30.25 前後、9 月 11 日週から 10 月 2 日週にかけては 48.25 前後へと急速に切り上がっている（7 月 21 日の終値は 24.84）。8 月 21 日週にかけては転換点を示す「雲ネジレ」も観測されており、雲上限の先行き上昇傾斜に即した VIX 上昇とリスク回避、過熱調整的な米株安には注意を要しよう。

最近では 2018 年 7-8 月にかけて、似たような週足での雲ラインの急上昇があった。当時はタイムラグを経て 10 月から VIX は雲の形状に追従した上昇となり（リスク回避）、米国株は米債金利上昇などによる急落波乱に見舞われている。その前後で米株 S&P500 は 2018 年 9 月の高値から 12 月の安値まで、-20.2% の下落となった。

その前では 2016 年 2-3 月にかけて、雲が急上昇となっていた。当時の VIX は先行して 1 月 1 日週の 15.63 前後をボトムに上昇へと転じ、1-2 月は 25 から 30 方向へと上昇が加速されている。当時の S&

P500 については、2015 年 11 月の高値から 2016 年 2 月の安値にかけて -14.5% の下落に直面した。今回も 8 月 21 日週以降の雲急上昇に即した形で、VIX 上昇と米株下落の波乱となる可能性は無視できない。

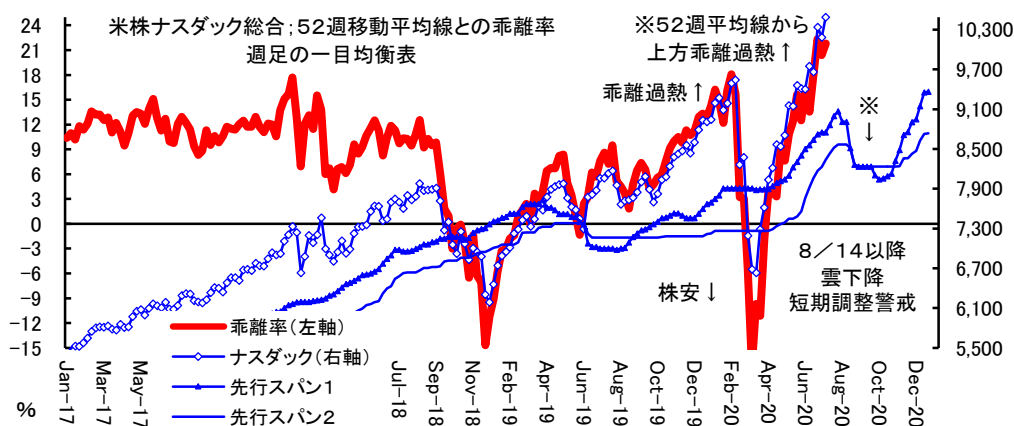
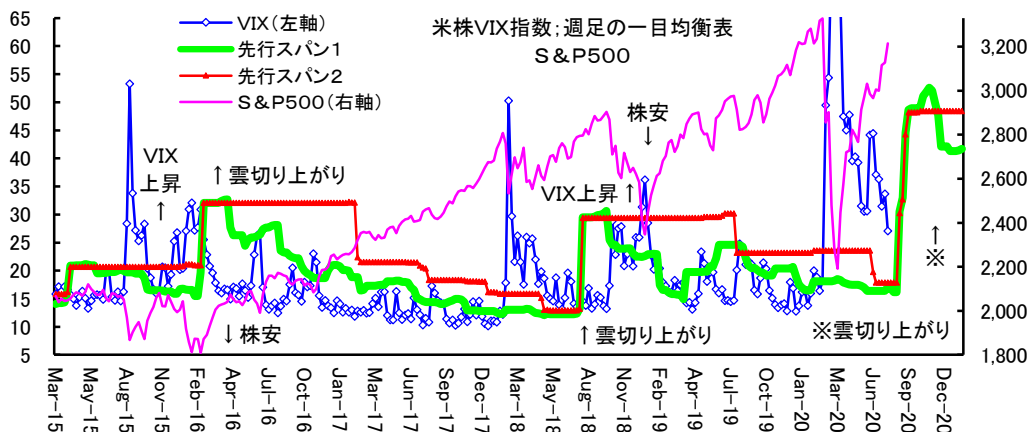
週足・一目均衡表チャートでいえば、過去最高値に高騰しているナスダック総合でも、先行スパンの雲上限が 8 月 14 日週の 9071 を最高として、9 月 11 日週から 10 月 9 日週にかけて 8235 方向へと一旦の急低下となっている。その後 11 月 20 日週以降は再上昇となり、来年 1 月には 9356 方向と 8 月の最高を上回る位置にあるとあって、「2 番天井トライ」の可能性も示唆されている。それでもその前段階では、雲上限の 8 月 14 日週以降の下降に即した短期調整リスクに注意を要しよう。

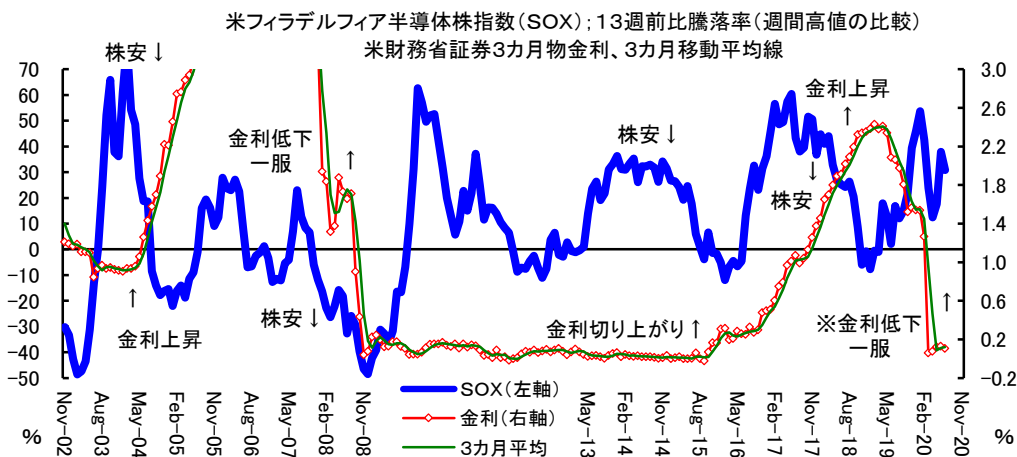
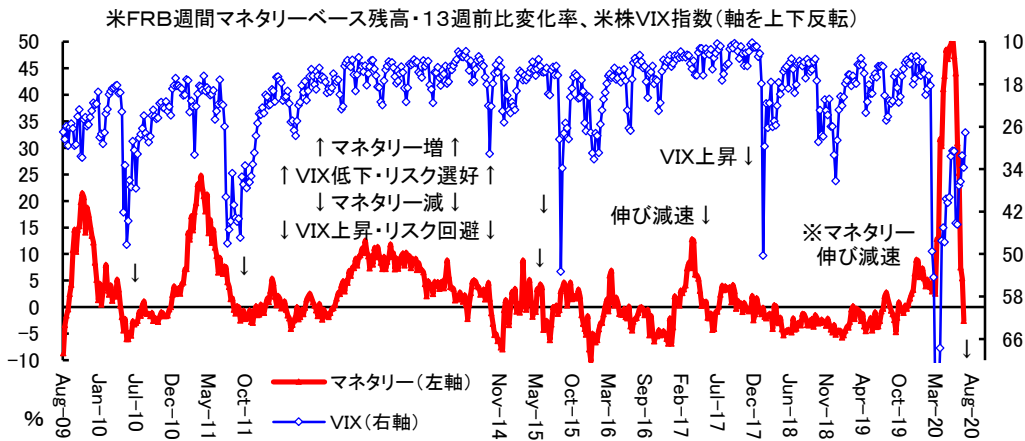
しかもナスダック総合については、週末終値ベースで「52 週移動平均線との乖離幅」が 7 月 10 日週に +22.4% の大幅な上振れとなった。最近のナスダックの調整下落直前である今年 2 月 14 日週の +18.1% を上回る上昇過熱となってきた。その前では 2010 年 1 月の +24%、2009 年 9 月の +25%、2004 年 1 月の +27% といった大幅な上振れ以来という、行き過ぎ乖離となっている。短期的に過熱調整が警

戒されやすい。

目先の米国株市場では、新たなコロナ経済対策案を巡る協議の難航がリスク要因となる。21 日のブルームバーグによると、「次の包括的経済対策案をまとめている米共和党は個人への直接給付と失業給付補助金の延長、コロナ検査の追加予算についてはおおむね支持しているものの、トランプ大統領が望む給与税減税には疑念を表明している」という。共和、民主両党とも来週末までの合意を目指すとしているものの、「最終的な議会通過は 8 月にずれ込む可能性が高い」（同）模様だ。

その他、8 月には米大統領選の緊迫化と政治不透明感の高まりも懸念材料となる。バイデン前副大統領は 20 日、副大統領候補選定の有力候補に黒人女性 4 人が含まれていると明言した。そのうえで 8 月 17 - 20 日に予定される民主党全国大会に向け、8 月初旬には副大統領候補を発表する方針を示唆している。民主党の副大統領候補の人選次第では、バイデン氏優位の加速と、危機感を強めるトランプ米大統領の中国攻撃や保護主義政策の激化といった波乱余地が残されている。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。